

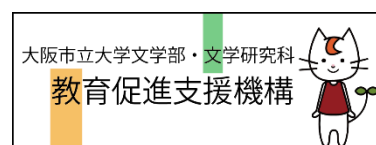
## Part.1 教育促進支援機構の活動

教育促進支援機構では、学生（学部生および大学院生）の「学び」を支援する多彩な事業を、学生みずからが企画・立案し、教員と協働して実施しています。教員と学生が対等な立場で運営と意思決定に参加する支援機構は、教員と学生の双方に普通の教室とは異なる仕方で協働する機会を提供することで、文学部・文学研究科の教育活動に創発的な学びの次元を付与しています。

支援機構の活動は、以下の【5つの部門】に分類されます。支援機構が行う事業には、学部・研究科から協力を依頼されて実施するものと、学生の企画提案にもとづいて実施するものがあります。いずれの場合も、具体的な事業内容は、学生会員の中から選出される企画リーダーを中心とする企画スタッフチームが立案します。学生会員は誰でも学生運営委員を通して、新たな企画を運営委員会に提案することができます。

ホームページ：<https://www.lit.osaka-cu.ac.jp/education>

Twitter：@oculit\_spel（学内向け）／@oculit\_spelPR（学外広報向け）



### 2020年度 活動一覧

#### 【教育支援】

履修相談会（4月）  
新入生歓迎オリエンテーション（4月）※中止  
学生による春のコースガイダンス（8月）

#### 【進路支援】

進路ガイダンス（2021年2月）

#### 【研究支援】

勉強会・自主ゼミ支援事業  
共同出版支援事業  
研究誌出版支援事業  
研究奨励賞

#### 【編集】

文学部案内冊子『れととりてら』発行（8月）  
『フォーラム人文学 No.18』発行（2021年3月）

#### 【広報】

オープンキャンパス学生企画（8月）  
オープンファカルティ（11月）

### 会議日程

#### 総会

2020年7月31日

#### 運営委員会

第1回	2020年4月24日
第2回	2020年5月29日
第3回	2020年6月26日
第4回	2020年7月24日
第5回	2020年9月18日
第6回	2020年10月23日
第7回	2020年11月27日
第8回	2020年12月18日
第9回	2021年1月22日
第10回	2021年2月19日
第11回	2021年3月26日

p.5-12では、2020年度に開催された学生企画の詳細を紹介しています





## 履修相談会



【実施日】2020年4月15日～2020年5月1日  
 【場所】オンライン(WebClass上)  
 【企画期間】10月～当日  
 【企画スタッフ】14名(4回生1名・3回生4名・2回生2名・1回生7名 企画運営時)  
 【当日スタッフ】0名  
 【参加者】152名  
 【ご協力いただいた先生方】添田先生、佐伯先生、高島先生、柏木先生、辻野先生、福島先生、文学部 教務担当の皆様 ほか

### 企画理念

>一回生が<

・履修のシステムを正しく理解したうえで、今後の学びの選択肢を把握し、自分の興味を見つけられる

・同回生と話やすく、先輩と接しやすい楽しい雰囲気なかで、履修制度だけでなく、これからの学びや人間関係への不安を解消できる

↓

一人でも時間割を組めるようになり、来てよかったと思える

### 履修相談会

履修相談会とは、新入生の初めての時間割組みを学生主体でサポートする企画です。上記の理念を策定した段階では、学術情報総合センターの一室をお借りして、実際に新入生と学生スタッフが一緒になって時間割を組むといった、対面企画を想定していました。しかし、2020年初頭、新型コロナウイルスの流行で世界は一変しました。その影響を受けたのは、履修相談会も例外ではなく、一時は企画自体の中止も危ぶまれました。そんな中、多くの人の想いがあってこそ、どうにかオンライン形式での開催を実現できたのが、当企画です。

私たちはオンライン上で大きく3つのコンテンツを実施しました。まず、「冊子『履修の解体新書』」をデータ公開し、時間割組みに必要な履修制度について情報発信しました。リアルな大学生生活を垣間見れる「先輩の時間割例」や、自分の興味に沿った時間割を組んでもらうための「興味振り返りワークシート」等を盛り込んだ、学生ならではのバラエティに富んだ内容です。続いて、「履修制度 解説動画」を公開し、Web履修システムの登録手順を含む、細かな履修制度を解説しました。オンライン企画ゆえの、新入生との埋めがたい距離感に苦しんでいたため、アンケートに「先輩方の肉声が



※集合写真は2019年10月に撮影したものです。



温かくて嬉しかった」というコメントを見つけたときは、まさに感無量でした。さらに「質問受付フォーム」を開設し、新入生から直接頂いた質問に対する回答一覧を掲示しました。例年にも増して不安を抱えている新入生の負担を、少しでも軽減したいという一心で、支援機構史上初の試みに踏み切りました。

今年度の履修相談会は、未曾有の危難に多くの変更を余儀なくされました。しかし、私たち14名で作上げた「履修相談会2020」は、決して過去の企画と遜色のない出来であったと胸を張って言えます。理想と現実の狭間で、妥協することなくBestを模索し続けたあの時間は、紛れもなく私にとっての青春であり、財産です。そんな時間を共に過ごした人たちを、何よりも愛おしく思います。

最後になりましたが、遠隔授業に伴う変更など多くの情報が錯綜するなか、教職員の皆様のご協力なしに、当企画は成立し得ませんでした。学生スタッフの想いを汲み、多方面でご尽力下さった皆様に、この場をお借りし、心より厚く御礼申し上げます。

言語応用コース 3回生 坂井 思葉



## 新入生歓迎オリエンテーション



【実施予定日】2020年4月4日（土）、5日（日）  
【実施予定場所】大阪市立大学  
【企画期間】2019年10月～2020年3月  
【企画スタッフ】20名（4回生1名・3回生1名・2回生8名・1回生10名）  
※新型コロナウイルスのため中止

企画理念【・参加者第一で安心感、安全性、楽しさ、メリハリ、時間のゆとり、キャンプならではの特別感がある。・たくさんの交流相手と交流機会を活かすことで、親睦を深める。・市大文について知り、自分の興味について考えることで、大学の学びのイメージを掴み、おもしろさを感じる。そして今後を考えるきっかけにする。・不安が軽減され、市大文生の一員だと実感し、大学生生活の良いスタートダッシュを決める。】

約半年かけて計画していたこの企画は新型コロナウイルスによって中止となりました。中止を決断した当時の私達は、心のどこかで後期にもなれば普通の日常が戻ると思っていましたが、大学生活は未だ元には戻りきっていません。この企画は、文学部新入生が、同回生や先輩、先生と仲良くなるきっかけの場であり、高校とは異なる大学の学びを少し体験する場となるものです。コロナによって中止を決断しましたが、コロナ禍だからこそより必要な企画であったと今は感じています。

当日を迎えることの無かった企画の中身を少しだけ紹介させていただきます。親睦を目的としたコンテンツと学びを目的としたコンテンツに別れていました。親睦コンテンツでは新入生はグループに分かれて、大学内を巡るゲームや、市大を題材にしたパーセントバールン、クロスワードなどに挑戦してもらう予定でした。学びコンテンツでは、自分の興味のあるものや好きなものをどのように考えられるかをグループのみんなで考える予定でした。このほかにも先輩・先生方とのざっくばらんなフリートークも予定していました。



当日を迎えることは無かったですが、学生が中心となって、どのような歓迎行事にしたか、どのようなコンテンツを行うかなどを一から考えた時間はとても楽しく、有意義なものでした。関わってくださった全ての方々にこの場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

ちなみに次年度の歓迎行事はオンラインで開催されるようなので、次年度の新入生にはぜひ楽しんでもらえたらと勝手ながら思います。

哲学コース 3回生 吉長公康



## 春のコースガイダンス



【企画日時】2020年8月31日 13:00~16:00 (16:00~17:00 交流会を自由参加で実施) ※申し込んでいただいた参加者にメールで企画当日用の URL を事前送信し、Zoom を利用し開催。

【場所】Zoom にて開催。

【企画期間】6月下旬~8月31日

【企画参加者内訳】

企画スタッフ7名 (4回生1名、2回生3名、1回生3名)

当日スタッフ28名 (D1 1名、M2 2名、4回生10名、3回生4名、2回生11名)

参加者34名 (16:00~17:00 に実施した交流会の参加者は24名)

毎年、1回生は12月の初めに、2回生以降、どのコースに進むのかを決めます。色んなコース・領域の上回生と話せる場を設け、1回生の後悔のないコース選択をサポートしたいと考え、本企画を立案しました。

私たち「学生によるコース・大学相談会」の企画スタッフ7名は、1回生の皆様に、「色んなコースの話聞いて、それぞれのコースの魅力を知ってもらおう」、「文学部の幅広さを理解した上で新しい発見や今後学びたいことを見つけてもらおう」ことで、少しでも不安の軽減につながり、コース選択の大切さを知ってもらうことを目標に企画しました。

企画当日には、最初に私のコース選択の体験をもとに、自分が関心を持っていること、今後研究したいことを「色んな見方」を通して、幅広く見た上で本当にやりたいことを見つけてほしいとお伝えしました。関心を持っていることを自己分析していただくため、事前に配布したマインドマップを使って15分間考えて頂いた後、7人班(上回生3名、参加者4名)に分かれ、共有し合う時間を設けました。その後、1回生の方々は、それぞれ異なる3つの班に入っていたいただき、不安に思っていることや知りたいことについて上回生と相談する時間を設けました。色んなコースでの見方に触れていたいただきつつ、できる限りコースが被らないよう、異なる3コースの上回生を各班に配置致しました。トーク後には、15分間、大学生活に関する相談時間も別途に設けました。もっと話を聞きたい方には、希望者のみ交流会に1時間参加いただき、最後にはスタッフからのメッセージをお伝えし、企画を終了しました。今年はコロナウイルス拡散の影響により、例年の大学生活とは異なるため、色んな不安を持っておられるだろうということを常に意識しました。



そのため、参加される方々には、事前に企画当日質問したいことを募集し、ニーズに応えられるよう試みました。なお、1回生スタッフたちが、1回生目線での不安や知りたいことを積極的に話してくれたおかげで、より参加者の目線に近づけることができました。

ご多忙の中、本企画中・企画終了後もご指導、ご助言を下さった方々のおかげで無事に企画を終了することができました。企画スタッフ一同、Zoomを使った企画が初めてであったため、ご不便をおかけしましたが、多くのことを経験し、学ぶことができました。本企画が参加者の皆様に「後悔のないコース選択」の一助となれば幸いです。ご協力いただいた教員の皆様、当日スタッフの皆様、本企画を応援して下さった方々、そして参加者の皆様にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。結びの言葉とさせていただきます。本当にありがとうございました。

社会学コース 4回生 安西正宏



## 文学部案内冊子

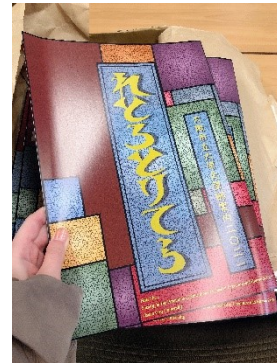


- 【企画期間】2月～4月（前半）、5月～7月（後半）
- 【企画スタッフ】10名（3回生1名、2回生4名、1回生5名）
- 【サポートスタッフ】4名（3回生1名、2回生2名、1回生1名）
- 【発行部数】2000部

私達、文学部案内企画スタッフ14名は、スタッフの心得として、「読者と制作側、両者の視点で考え、柔軟な発想のもと「文学部とはどういうものか」が伝わるように努力する」、冊子内容として、対象者層を市大の受験生、進路に迷っている中高生、在学学生、何となく目にした人とし、冊子内容の心得として、「①統一感のあるわかりやすい誌面や正確で必要な情報・視覚資料で、市大文の雰囲気・特色や学生の本音が具体的に伝わり、誰が読んでも同じ情報を得られてインパクトがある、入学後も役に立つ冊子」「②いい意味でゆるく、学生が1から作っていることがわかるような親しみと安心感があり、市大を知らない人も心惹かれる、何回も読み返したくなるような、進学モチベーションとなる、読んでいて楽しい心に残る冊子」「③様々な学問分野の存在や、先生方の学問・研究分野の魅力を伝えることで、大学への学びの入口となり、新たな学びの選択肢を提示できるような冊子」を、理念に掲げ、冊子企画作業・編集作業を行ってまいりました。

主な掲載内容は以下の通りです。

- ・学部長インタビュー（文学部の特徴・魅力、文学部で身につく力・学ぶことのできる内容・学ぶ意義、今後の文学部、文学部を目指す学生へのメッセージ）
- ・4年間のカリキュラム、新大学について、文学部組織図
- ・制度説明（コース選択、マインドマップ、コース選択体験談、特任教員紹介）
- ・コース紹介（各コースについて、先生の研究について、所属学生インタビュー（コースに入ったきっかけ・自信の興味について・コースの雰囲気や特徴・楽しみにしている授業について（文化資源コースのみ）、教員紹介、卒論タイトル例、各コースオススメの入門書）



- ・留学について（制度・体験談）
- ・進路選択について（体験談・卒業後進路一覧（QRコードにて掲載））
- ・資格について（制度・体験談）
- ・学生生活について（時間割、生活スタイル・受験体験など（インタビュー、アンケートなどで掲載））
- ・文学部・文学研究科教育促進支援機構について（組織図、活動紹介、企画参加者へのインタビュー）
- ・編集スタッフ紹介、あとがき

すべてリモートでのミーティングで作業を行い、理念を達成できるように様々な考え、はじめてで不慣れなことも多かったです。無事に冊子を作成することができました。この場をお借りしまして、企画に携わっていただきました先生方とサポートスタッフの皆様、並びに取材にご協力いただきました先生方と学生の皆様に厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

表現文化コース 3回生 中田万裕





## オープンキャンパス



【実施期間】2020年8月7日(金)～20日(木) (WEB ページ閲覧可能期間は30日(月)まで)

オンライン質問相談会実施日：8月15日(土)、16日(日)

【場所】WEB オープンキャンパス文学部特設サイト

【企画期間】6月～当日

【企画スタッフ】11名(前期博士課程1年1名、4回生2名、3回生2名、2回生3名、1回生3名)

【当日スタッフ】16名(企画スタッフと重複する3名含む)

【参加者(双方向コンテンツ)】15日5名、16日6名

【企画名】「オンライン質問・相談会」「質問掲示板(質問募集・回答)」「学部説明会第2部」「りてらちゃんとキャンパスツアー(キャンパス紹介)」「受験体験談—先輩たちの合格までの道のり—(受験体験談)」「あの人今何してる?—市大文学部卒業生の今—(卒業生インタビュー)」「教えて!市大文学部生!—大学生生活ってどんな感じ?—(大学生の生活)」

ご協力いただいた先生方：佐賀先生(OPC小委員会担当)、そのほかご相談にのっていただいた運営委員担当の先生方や学部長など

### 企画理念

- ・市大文を知りたい中高生/保護者のために、学生ならではの視点・伝え方で正確な情報を正確に伝える
- ・Webのメリットを活かして、最大限の求められる形に対応する
- ・参加者が気軽に安心して参加でき、楽しめる
- ・市大文の魅力や参加者が知りたいことを余すことなく伝え、参加者の積極的な進路選択のための具体的な判断材料を与える
- ・市大文に良い印象をもってもらう

文学部オープンキャンパス学生企画は、市大文学部の魅力や学生生活での経験を学生の視点から参加者に伝え、進路選択のサポートをするという目的から立ち上がった企画です。これを達成するために、企画スタッフ全員で考えた上記の理念を胸に、一からコンテンツを作り上げました。

本年度は新型コロナウイルス感染症の流行のため、開催方式を例年の対面形式からオンラインへ変更する必要があり、ノウハウも時間もない中でたくさんの方の試行錯誤が必要でした。学生自身も慣れない環境に身を置きながら、企画成功のためにたくさんの方のアイデアを出し合い、コンテンツ制作に尽力しました。

コンテンツを考える際、オンライン開催でも参加者との双方向の対話を大切にしたいという思いから、ZOOMを利用した相談会の実施を決めました。また、場所や時間の拘束がない



というオンラインの利点を活かして、常設のWEB記事コンテンツも作成しました。限られた環境、限られた時間の中で、多くの学生に取材協力や当日スタッフとしての助力をお願いし、同時に参加者の応募や原稿の調整、プレゼンの作成を行うなど、企画スタッフはたいへん苦勞したかと思えます。また、先生や学部事務の方々もたいへん親切に学生の相談に乗ってくださいました。このようなたくさんの方々の尽力のおかげで、充実したコンテンツを作り上げることができました。企画に携わったすべての皆様に、厚くお礼申し上げます。

本企画は、学生自身が貴重な経験を得た良い機会だったとも思えます。臨機応変な対応が必須となる昨今、前例にとらわれずに表現の手段や内容について考えたり、状況に合わせて活動環境を新しくし順応していったりする力は、今後あらゆる場面で生きていくはずで、また、今回の企画が残した結果がノウハウの一つとして今後の学生企画に役立つこともあろうかと思えます。そのように、企画の中で学生の歩んだ一歩が、またどこかの未来の一歩につながることを願っています。

表現文化コース 3回生 秋永愛美



## オープンファカルティ



- 【実施日】2020年11月22日（日）
- 【場所】Zoomを用いたのオンライン開催
- 【企画期間】2020年10月～当日
- 【企画スタッフ】7名（3回生1名、2回生4名、1回生2名）
- 【当日スタッフ】13名
- 【参加者】5名
- 【学生企画】文学部生とのフリートーク

私たち、オープンファカルティ学生企画の企画スタッフは、「参加者にとって、気軽に参加しやすく、今後のモチベーションに繋がるような、楽しくて、ためになる、親しみやすいトーク企画。スタッフは、学生ならではの視点に立ち、オンラインでも安心して参加してもらえるようにする。」という理念を軸に、企画に取り組んできました。

本企画では、2018年以来、2年ぶり、3度目の開催となったオープンファカルティで、主に高校生を対象としたオンラインフリートークを開催しました。オープンファカルティの場で学生企画を行うのは、2018年以来2度目でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンライン開催となり、前回とはまったく違う、新しい試みとなりました。

今年度は、先にもあげたように、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、Web会議システムZoomを用いてミーティングを行うなど、オンラインで準備を進めました。初めての開催形式で、例年以上に当日の状況が読みにくかったこともあり、戸惑いや困難を感じることも多々ありました。しかし、困難な状況下でも、今できる最大限のことをやろうと、どうすれば参加者にとって有意義な企画を作れるか、企画スタッフ一同、当日ぎりぎりまで試行錯誤を重ねてきました。その結果、企画当日は、様々なトラブルにもスタッフ同士協力して臨機応変に対応し、無事、大きな問題なく終了することができました。参加者数は決して多いとは言えないかもしれませんが、一人一人に丁寧に対応し、少しでも多くの疑問を解消する手助けをできたのではないかと感じています。



この企画のリーダーに立候補するのは、私にとってとても大きな挑戦でした。今までにない新しい開催形態、オンラインのみでの企画準備など、不安でいっぱいでしたが、そんな私がこの企画をやり遂げることができたのは、一緒に困難を乗り越えてくれる、大切な仲間がいたからです。私自身も含め、企画スタッフ一同、この企画を通して新しいことに挑戦し、やり遂げることで、成長することができたと思います。

このかけがえのない経験をすることができたのは、何度も相談にのっていただき、たくさんのご助言をいただいた教職員の皆様と、当日の企画運営に携わっていただいた当日スタッフの皆様のおかげです。この場をお借りして、企画スタッフを代表して厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

国語国文学コース 2回生 田中輝



## 卒論セミナー



- 【実施日】2021年1月22日（金）  
13：20～15：00（Zoom コンテンツ開催日）
- 【開催形態】WebClass「文学部・文学研究科のホームルーム」および OCU UNIPA 掲示板に各コンテンツへのリンクを掲載。
- 【準備期間】2020年11月～2021年1月
- 【企画スタッフ】前期博士課程1年1名、2回生3名
- 【当日スタッフ】4回生4名
- 【参加者】19名（Zoom コンテンツの参加人数）

### 企画理念

卒論を書いたことがない 1～3 回生に向けて、先輩の実体験から「卒論とは何か」を伝え、参加者が卒論に前向きになれる。

実際に卒論を書くときに役立つ、学生企画ならではの卒論セミナー。

卒業論文は、大学での学びの集大成でありながら、いざ自分が書く番になるまで今ひとつイメージが掴みにくいものです。文学部生のための卒論セミナー『はじめての卒論』は、1～3 回生を対象に、4 回生の卒論執筆体験談などから「卒論とは何か」のイメージを掴んでもらうために開催しました。卒論セミナーは 2017 年度を最後に開催が途絶えており、3 年ぶりの復活となりました。

今回は、クイズを交えて卒論の基本を学ぶ《プレゼン》、卒論にまつわる体験談が盛りだくさんの《パネルトーク》、疑問を 4 回生に相談できる《フリートーク》を実施した【Zoom コンテンツ】に加えて、全 32 ページの【冊子コンテンツ】を Web 上で配布しました。

今回の企画スタッフ 4 名のうち 3 名は卒論執筆経験のない学部生でした。彼らは企画スタッフとして「卒論とは何か」を伝える立場であると同時に、参加者と同じく本企画を通して「卒論とは何か」を学ぶ立場でもありました。本企画の準備段階では、スタッフ全員が「参加者目線に立って、どのような企画が望ましいか考えること」を意識して、細部までこだわり抜いてコンテンツを練り上げることに重点を置きました。

準備段階から当日にいたるまでをすべて非対面で行うことは、先例に乏しく手探りでありながらも、最終的には従来の企画に勝るとも劣らない、充実した企画を提供できたとスタッフ一同自負しております。



Zoom コンテンツは、2017 年度を上回る 19 名の参加者を迎えて、好評のうちに幕を閉じました。また、文学部生であれば誰でも Web 上から冊子を DL 可能にしたことや、Zoom コンテンツの様子を後日 YouTube 限定公開にて見逃し配信したことは、オンラインならではの新しい取り組みでした。総じてふりかえると、「対面の代わりにオンラインになった」という消極的な背景こそあれど、むしろオンラインの強みを打ち出すことができたことと積極的な評価もできるでしょう。

次年度以降、教育促進支援機構の学生企画で、徐々に対面が復活していくのか、引き続きオンラインが主体になるのか、現時点では未知数ですが、学生企画として大切なことは、その時にできる最善を尽くして、文学部生のためになるさまざまな企画を次々と打ち出していくことであると感じています。今後も「卒論セミナー」をはじめ、多くの学生企画が開催されていくことを切に願っております。

最後に、本企画にご協力くださった先生方、学生のみなさま、参加いただいたみなさまにお礼を申し上げます。

地理学専修前期博士課程 1 年 倉田英法





## 進路ガイダンス



- 【実施日】 2/26(金)13:30~15:30
- 【場所】 オンライン開催
- 【企画期間】 11月~当日
- 【企画スタッフ】 4回生1人、3回生2人、2回生1人 計4人
- 【当日スタッフ数】 15人
- 【参加者数】 35人

今年度の進路ガイダンスは、  
・参加者に進路選択のことを自分のこととして前向きに考えてもらう  
・進路選択の第1歩に  
という理念のもと企画を作り上げました。初のオンライン開催となりましたが、対面形式であった前年度よりも多くの方々にご参加いただきました。

例年2日に分けて行われていた企画ですが、今年度は開催時期が春休みであること、オンライン開催であることから1日のみの開催となりました。本企画では、民間・教員・公務員・大学院のそれぞれに進路を決めた4回生がお題に沿って話すパネルディスカッションと、民間・教員・公務員・大学院の進路ごとに分かれたブースで参加者が自由に質問することができるフリートークを実施しました。パネルディスカッションでは、進路決定までのスケジュールや進路を決めた理由といった、4つの進路に共通するお題について4回生に話してもらうことで、参加者にそれぞれの進路のイメージを持ってもらいました。フリートークではパネルディスカッションで聞いた話をもとに4回生へ質問をすることで、参加者が興味を持った進路についてより深く知ってもらいました。また、本企画の参加者には進路選択に役立つ情報が詰まった資料集を配布しました。この資料集には進路選択に関する用語集やエントリーシート・志望書の記入例などを掲載しており、本企画終了後も進路選択に活用することができるものになっています。企画の参加者からは「進路を考えるいいきっかけになった」「また来年も開催してほしい」「先輩の話を知ることができてとても参考になった」などといった声をいただき、理念に沿って作り上げた企画が参加者の満足度に繋がったようで嬉しく思いました。



私は昨年度の進路ガイダンスにも企画スタッフとして参加していたので、昨年度のリーダーの「このような企画が続いてほしい」という願いを叶えたいと思い、進路ガイダンスのリーダーになることを決めました。まだ進路選択についての知識や経験が無い2回生がリーダーを務められるか不安でしたが他のスタッフに頼りながら、知識や経験が無いなりに参加者の目線からも企画作りを進められたと思います。また、企画の準備を進める中で上回生のスタッフから進路に関する話を聞く機会が多く、企画を通して進路についての知識や考え方を得ることができました。来年度も回生問わずこのような企画を作ってくれる人が現われてくれればと思います。

国語国文学コース 2回生 西岡佳希